

2014年3月期 決算概要と今後の見通しについて



2014年5月21日
ULSグループ株式会社

<http://www.ulsgroup.co.jp/>
<mailto:ir@ulsgroup.co.jp>
Tel: 03-6220-1416 Fax: 03-6890-1601

本日の内容

1. 2014年3月期 決算概要
2. 事業の概要
3. 2015年3月期 業績見通し
4. 株主還元策について

1. 2014年3月期 決算概要

2. 事業の概要

3. 2015年3月期 業績見通し

4. 株主還元策について

2014年3月期 決算の総括

**創業来最高の
通期売上・利益達成**

コンサルティング案件の受注増により前期に引き続き創業来最高の通期売上と利益を達成。

**ITコンサルティング
が非常に好調**

既存顧客及び新規顧客からの案件受注が好調に伸長。

**新ソリューションの
積極展開**

クラウド関連の新ソリューションをリリース。次世代高速分散処理技術に対する顧客需要を先取り。

2014年3月期(連結): 対前年同期

(百万円: 単位未満切捨て)

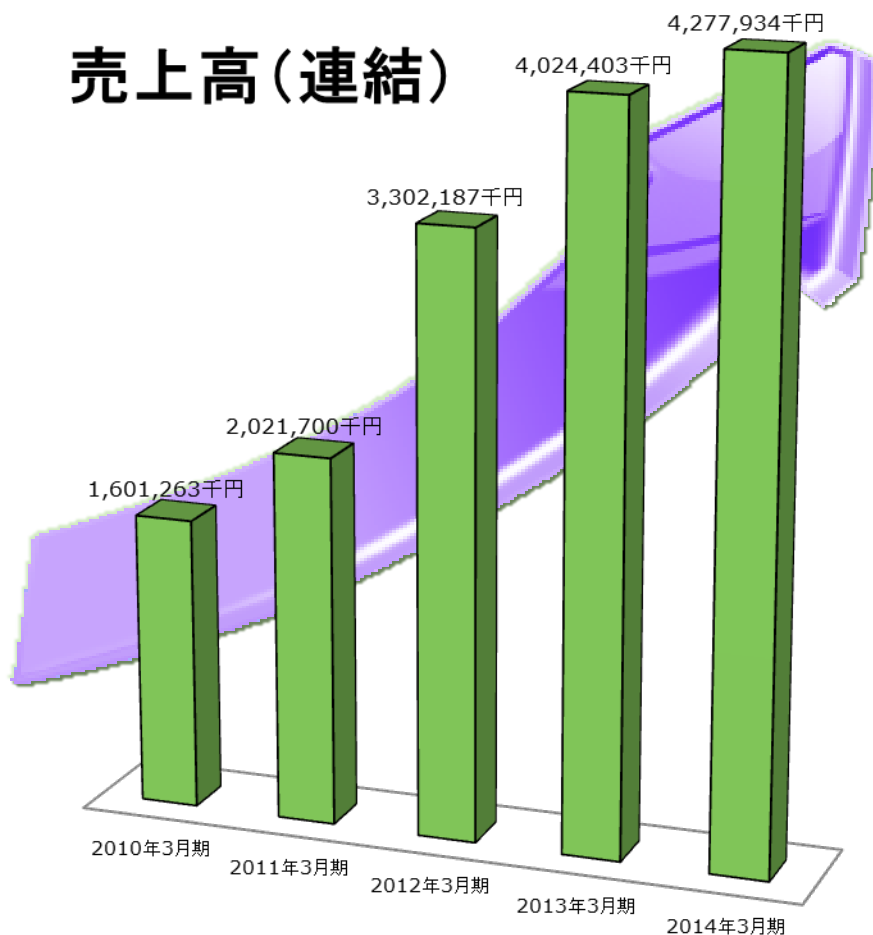
	2013年3月期 実績値	2014年3月期 実績値	増減額	増減率 (%)
売上高	4,024	4,277	253	+6.3%
営業利益 (営業利益率)	513 (12.8%)	566 (13.2%)	52	+10.2%
経常利益 (経常利益率)	517 (12.9%)	570 (13.3%)	52	+10.2%
当期純利益	210	279	69	+33.1%

【売上高】コンサルティング案件受注が想定以上に堅調に推移。前期に引き続き、創業来最高の通期売上高を達成。

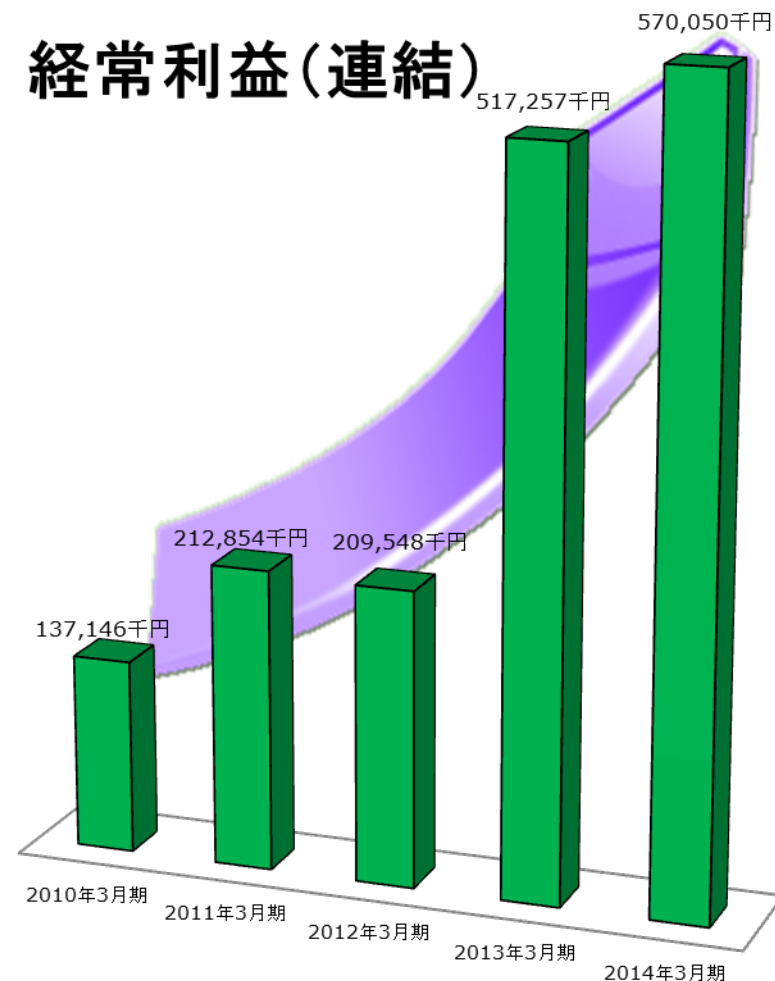
【営業利益・経常利益・当期純利益】売上の堅調な増収と業務の効率化継続により創業来最高の利益を更新。

直近5か年の売上高及び経常利益推移(連結)

売上高(連結)



経常利益(連結)



1. 2014年3月期決算概要

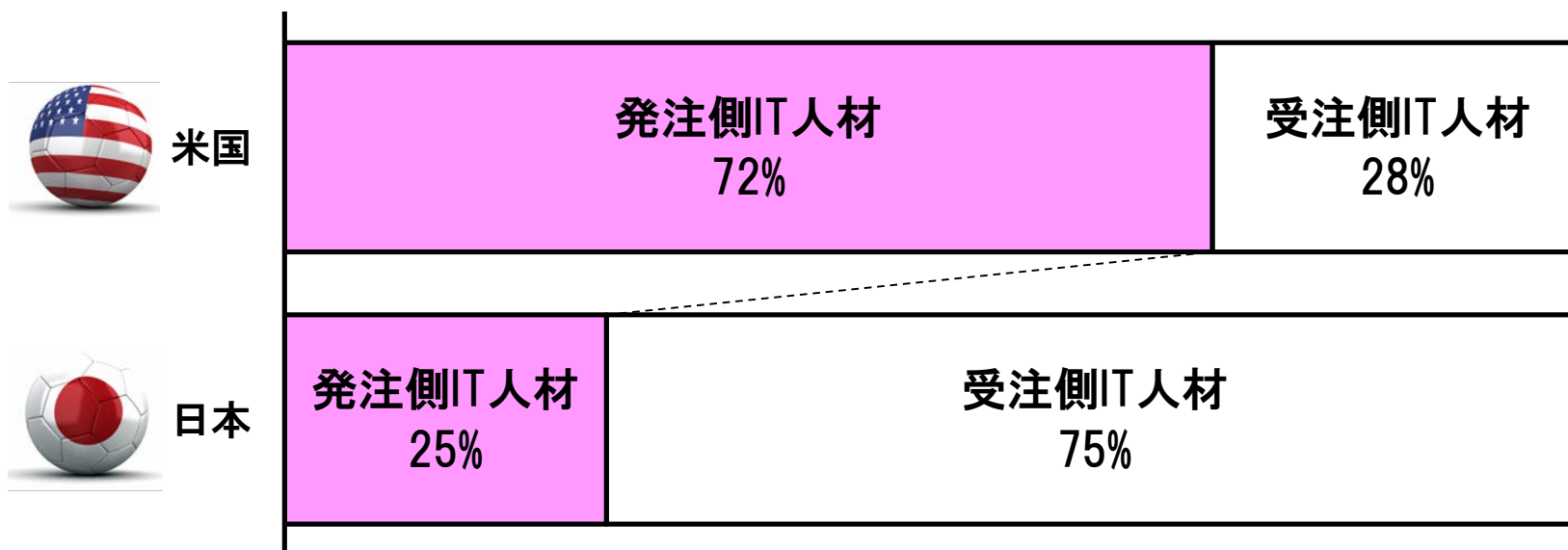
2. 事業の概要

3. 2015年3月期 業績見通し

4. 株主還元策について

日本のIT産業の課題は「受注側が多すぎる」事

米国は発注側IT人材が大半だが、日本は受注側に偏りすぎている。

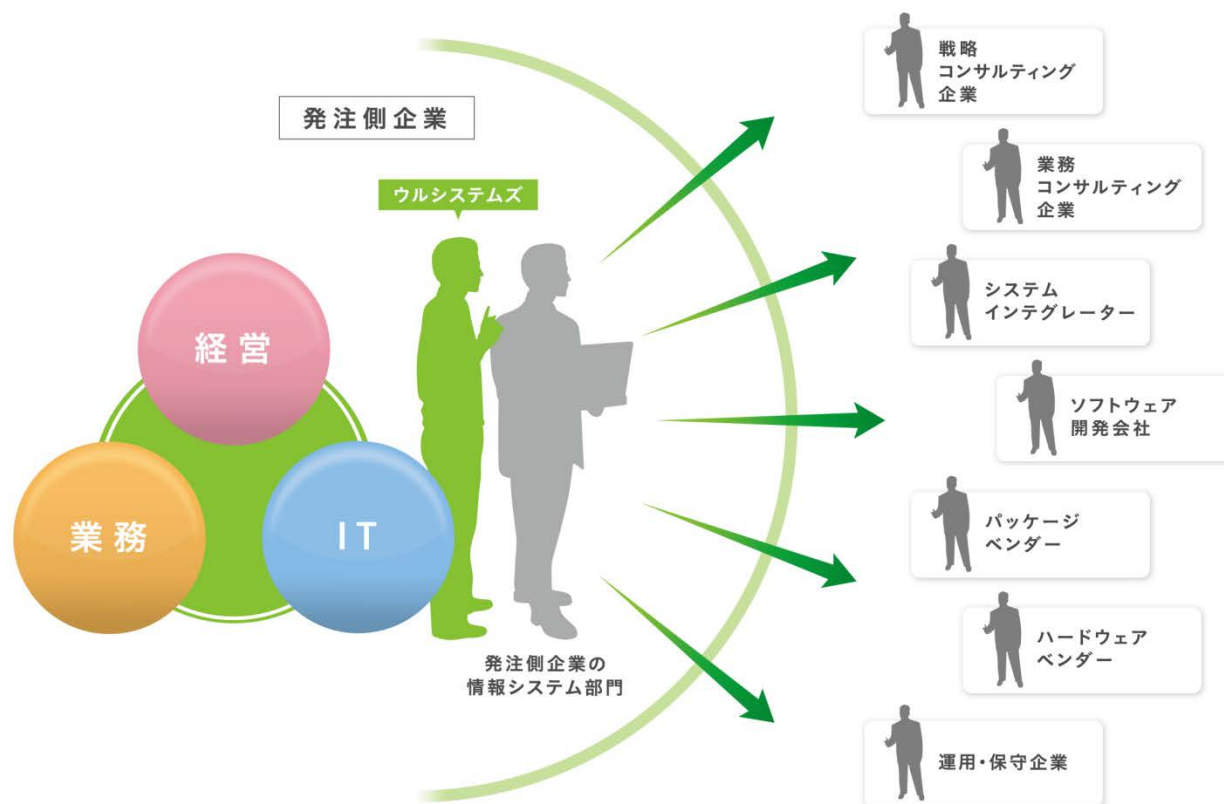


出典：(独)情報処理推進機構 グローバル化を支えるIT人材確保・育成施策に関する調査(平成23年3月)より
ウルシステムズ分析

経営に貢献する戦略的ITの成功が難しい一因は
この産業構造の偏りにある

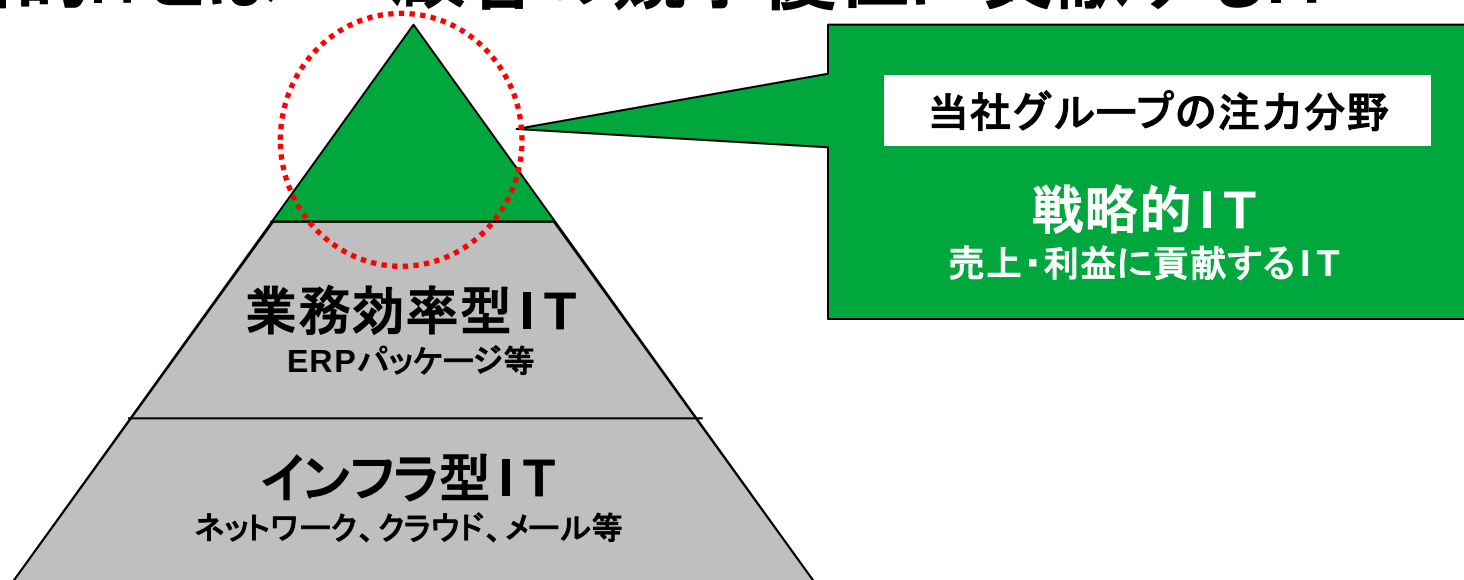
発注側を強くする「ユーザー主導開発™」

当社は 発注側を支援する 独自のポジションで
「ユーザー主導開発」を実現し、ITを成功させます

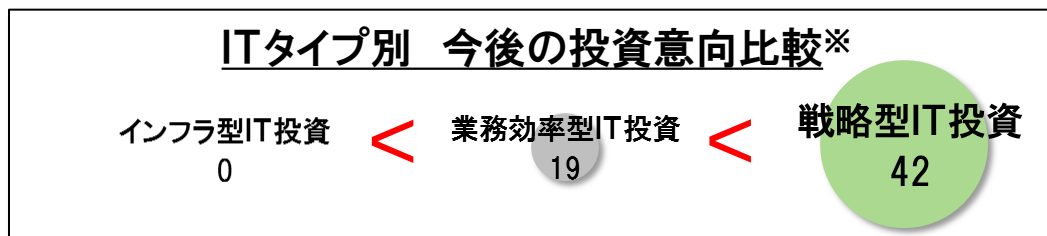


「戦略的IT」に特化したITコンサルティング企業

戦略的ITとは・・・顧客の競争優位に貢献するIT



企業の戦略的ITへの投資意向は旺盛



高いサービス品質を実現する独自ナレッジ

ULBOK に基づく技術と方法論

上流技術

IT戦略・システム企画策定・要求開発
業務分析・要件定義・モデリング・
ベンダー評価と選定

ULBOK

ウルシステムズの知的資産

発注側方法論

アジャイル/リーン開発・CI
業務フレームワーク・プロジェクト管理
プロセス標準化・品質管理

先端技術

リアルタイム・大規模分散処理
インメモリ処理・高速ランザクション
ストリーミング・CEP・ビッグデータ分析

IT業界への貢献：最新技術情報の発信

知見・オピニオン発信による、IT業界への貢献

上流技術



発注側方法論



先端技術



書籍の他、各種専門誌にて寄稿しています。

- 【雑誌】日経SYSTEMS（日経BP）連載「漆原 茂の技術インパクト」
- 【雑誌】日経SYSTEMS（日経BP）連載「要件定義を成功に導くモデリング」
- 【雑誌】日経SYSTEMS（日経BP）連載「ロジカルシンキング 使いこなし技」

各種セミナーの実施

- ◆ ソリューションセミナー
『貴社のビジネス拡大に貢献する！ビッグデータ分析のはじめ方
～アマゾンデータサービス ジャパン・Tableau Japan に聞く～』
- ◆ ユーザー企業向けセミナー
『主導権は情シスが握れ！
～ユーザー主導開発のノウハウを伝授します～』 他



Topics

（事例）

鹿島建設株式会社様

「データ連携基盤」構築と
開発標準整備を支援

2013年6月25日発表

（先端技術）

クラウド型データウェア
ハウス
「White-eYe」
提供開始

2013年9月2日発表

（先端技術）

クラウド型ビッグデータ
管理プラットフォーム
「BlueRabbit」
提供開始

2014年1月24日発表

Topics

デロイト トウシュ トーマツ リミテッド

2013年度「アジア太平洋地域テクノロジーFast500」
及び同「日本テクノロジーFast50」を受賞



【テクノロジーFast500／Fast50】

テクノロジーFast500は、国際会計事務所組織デロイト トウシュ トーマツ リミテッドが発表している、アジア太平洋地域におけるテクノロジー、メディア、テレコミュニケーション業界（TMT業界）企業の過去3年間の収益（売上）成長率ランキングであり、Fast50はその日本版です。いずれも、TMT業界での成長性や成功のベンチマークとなっています。

-
1. 2014年3月期 決算概要
 2. 事業の概要
 - 3. 2015年3月期 業績見通し**
 4. 株主還元策について

2015年3月期 業績見通しの概要

(百万円:単位未満切捨て)

	2014年3月期 (連結実績)	2015年3月期 (連結見通し)
売上高	4,277	4,000
経常利益 (経常利益率)	570 (13.3%)	500 (12.5%)
当期純利益	279	250

業績見通しのポイント

「成長の基盤」を固める年とします

- ① 先端ITソリューションの積極展開
White-eYe、BlueRabbitなど次世代ITソリューションを活用した案件の安定受注を目指す
- ② 既存顧客との関係深化、新規顧客の開拓
安定収益源となる既存顧客へのコミット体制強化
販促活動の一層強化により顧客層拡大図る
- ③ 人的リソース拡充による受注力の確保
新卒、中途問わず優秀な人材の積極採用注力
収益機会を逃さない人員体制を確立

-
1. 2015年3月期 決算概要
 2. 事業の概要
 3. 2015年3月期 業績見通し
 - 4. 株主還元策について**

株主還元策

配当の方針

連結当期純利益の20%～30%を目安に、完全業績連動で実施

(参考) 2014年3月期 1株あたり10円(配当性向20.2%)

2015年3月期 1株あたり 9円(配当性向20.4%)(予想)

自己株式買付け

保有自己株式総数 420,800株(持株比率6.9%)(本日現在)

今後も、株価等の動向を勘案しつつ適時買付けを実施する予定

(なお、現時点では自己株式買付にかかる新たな決定は行っておりません。)

本資料お取り扱い上の注意点

本資料は決算説明及び当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。